

# 知恵の樹

No. 220 2018.1.27

町田の図書館活動をすすめる会  
<https://machida-library.jimdo.com>

代表：手嶋 孝典  
[teitaka@f8.dion.ne.jp](mailto:teitaka@f8.dion.ne.jp)

## さるびあ図書館の存続を！

町田の図書館活動をすすめる会 手嶋 孝典

≪「町田市立さるびあ図書館の存続を求める請願」に取り組んでいます！≫

紙面をお借りして、「さるびあ図書館の存続を求める請願」の内容について紹介するので、ぜひとも特段のご協力をお願いしたい。

「町田市5ヵ年計画 17-21」では、「貸出冊数は減少傾向にあることなど」を理由に、「8箇所ある図書館の再編を推進」するとしている。「貸出冊数の減少」がどこに原因があるのかを検証することなしに、「図書館の再編を推進」しようとしているのである。「貸出冊数の減少」の主な原因は、図書購入費の大幅削減にあることは間違いない。

また、現在検討が進行中の「公共施設再編計画」でも町田駅周辺での中央図書館との重複を理由に挙げ、さるびあ図書館が再編計画の俎上に載せられている。

≪さるびあ図書館は町田市立図書館の歴史を背負っています≫

さるびあ図書館は、1972年5月、町田市立町田図書館(本館)として現在の地に開館した。以来、閑静な住宅地にある開放的な図書館として、市民に親しまれ続けている。しかも、それ以前にあった図書館とともに町田市立図書館の歴史を背負っている図書館でもある。1990年に中央図書館が開館した際、さるびあ図書館に改名したが、その後も地域になくてはならない図書館として機能し続けている。

≪移動図書館の基地としての役割を担うとともに独自のサービスも展開≫

1970年9月から運行を始めた移動図書館「そよ

かぜ号」は、建物の図書館から離れているサービス空白地域に2台で43カ所巡回している(他に堺図書館は、1台で23カ所を巡回)。

図書館中庭に駐車スペースがあることと移動図書館の基地であることを活かして、以下のように、学校教育や地域の読書ボランティアとの連携したサービスも担っている。

・学校及び学校図書館支援の役割  
・地域文庫・読書会・その他の団体の貸出拠点の役割

≪専用駐車場があることにより、公共交通機関や徒歩での移動が困難な利用者も気軽に利用します≫

専用駐車場があるため、地域住民だけの利用にとどまらず、市内全域から利用されている。

≪建物の長寿命化は可能です≫

必要な修繕と適切な改修を行えば、建物の長寿命化が図られ、もっと居心地の良い図書館に改善することが可能であると、専門家は指摘している(本号3頁参照)。

≪地域の町内会・自治会長、地域文庫の代表、図書館ボランティアも請願者になっています≫

さるびあ図書館近隣の町内会・自治会長を始め、地域文庫の代表、さるびあ図書館のボランティアの皆さんも請願者として名前を連ねている。更に請願者の追加募集もしている。

実質1カ月の短期間の取り組みであるが、利用者・住民の知恵と力で、「さるびあ図書館の存続を求める請願」を成功させよう！ (会代表)

こんな本みつけた！(第5回)

## 『わたしのとくべつな場所』

野町 美和(忠生図書館)



『わたしのとくべつな場所』(パトリシア・マキサク文、ジェリー・ピンクニー絵、藤原宏之訳、新日本出版社、2010年)

おめかしをして出かけようとするパトリシアに、おばあちゃんが声をかけます。「どんなことがあっても、胸をはって歩くんだよ」

今日はパトリシアが初めて一人で、大好きな“あの場所”へ行く日です。バスに乗ったパトリシアは、料金箱にお金を入れてから、「黒人指定席」に座ります。

1950年代のアメリカ南部では、リンカーンの奴隷解放宣言から100年を経て尚、ジム・クロー法の支配のもとに公然と人種差別が行われていました。パトリシアの住むテネシー州ナッシュビルも例外ではありませんでした。

“あの場所”に辿り着くまでに、パトリシアは公園の中で、レストランの前で、ホテルのロビーで、そして映画館の入口で、様々な形で差別を受け、挫けそうになります。人影のない教会の庭で、泣きじゃくるパトリシア。

「“あの場所”に行くことなんて、どうでもいいわ。お家に帰りたい」

そんな時、パトリシアの背中を押してくれたのは、おばあちゃんの声。「まっすぐ前を見て歩きなさい」

その声に励まされて、再び歩き始めるパトリシア。そして、漸く辿り着いた“あの場所”、おばあちゃんが「自由への入口」と呼んでいる“あの場所”——ひとときわ高くそびえるその建物の正面入口には、こう刻まれていました。

「公共図書館:だれでも自由に入ることができます」

図書館司書として、強く胸を打たれる最後の一行です。しかし実は、この時代、アメリカ南部において黒人に門戸を開いていた図書館は、決して多くはありませんでした。今でこそ、公共図書館は、「年齢、人種、性別、宗教、国籍、言語、あるいは社会的身分を問わず、すべての人が平等に利用できるという原則に基づいて」\*運営されていますが、アメリカ南部で全ての黒人が敬意をもって公共図書館に迎えられるようになるのは、座り込みやデモ行進等、数々の苦勞の多い公民権運動を経てのことなのです。

そのような背景を踏まえて読む時、この最後の一行は、より重みのある清々しい言葉となるはずです。

\*「ユネスコ公共図書館宣言 1994年」

(会員・自治労町田市図書館囑託員労働組合)

まちだ未来の会 第8回学習会参加報告(第2回)

### これからどうなる？ これからどうする！ さるびあ図書館

## 大宇根 弘司 「公共施設の長寿命化を考える一さる

### びあ図書館を例として一」(要約・抜粋) + 質疑・討論

昨年12月16日(土)に開催されたまちだ未来の会第8回学習会参加報告を前号に続いて掲載する。

今回報告するのは、講演②「公共施設の長寿命化を考える一さるびあ図書館を例として一」と題する大宇根弘司氏(市内建築家)による講演(要約・抜粋)と全体にわたる質疑・討論の部分である。

《講演内容の要約・抜粋》

はじめに

町田市にたくさん公共施設があるが、施設の長寿命化を考えるということで、50年経ったものは、原則もう寿命だ、建て替えましょう、いくつかある機能を管理しやすいようにしましょう、お金もかからないし、市民にとっても使いやすくなります、ということが謳ってある。文学館は私が設計させてもらったが、元々は公民館だった建物。かなり使い勝手の悪そうな公

民館だったが、それをリノベーションして文学館の設計をさせてもらった。これも再編の中でなくなるかもしれない、ということ言われて、これは大変だ、何とかならないかというので、まちだ未来の会に加わっているという次第である。

### 1. 「国有財産行政における PRE (Public Real Estate) 戦略と長寿命化を踏まえた国の庁舎等にかかるライフサイクルコスト(LCC)の算定と比較の手法について」

さるびあ図書館に関しては、たくさん問題はあるが、壊さなくても十分使い続けられると思う。そのように言ってみたが、それだけでは説得力がないので、資料を当たってみた。「国有財産行政における PRE (Public Real Estate) 戦略と長寿命化を踏まえた国の庁舎等にかかるライフサイクルコスト(LCC)の算定と比較の手法について」というものがある。

### 2. PRE(Public Real Estate)検討会

PRE(Public Real Estate)検討会というのがある。役に立ちそうなところを紹介すると、長寿命に関して、日本はサイクル年数、これは例えば住宅でいうと、今ある建物の数を新しく建てていく年ごとの数で割ると、いったい何年経つと全部建て替えられるかというのをサイクル年数と呼んでいるそうだが、日本は30年、アメリカが103年、英国141年。

寿命というのは、「税法上の耐用年数や固定資産税評価基準の経年減点補正などの影響があるのか、日本では鉄筋コンクリートで、50年程度と認識されていることが一般的です」と書いてある。先程の公共施設の見直し50年と符合する。最後のところで、結論の一つとして、「ライフサイクルコストの把握の前提となる建物寿命について、維持・管理を適切にすれば、物理的でも100年は持つと考えていい」と書いてある。

### 3. 「建物は何年もつか」

早稲田大学の小松幸夫先生がレポートしている。ここではどういことが謳われているか。建物の寿命を定義していて、「ある建物が実際に存在した年数で決まります。建物の耐用年数というのは、減価償却のための年数で決まります」というようなことが言われている。それから、寿命の推計方法、これは先程サイクル年数というのが出てきたが、全く同じデータを使って、「日本30年、米国103年、英国

141年」という数字が載っている。

(滅失建物の平均寿命、耐久性についても触れられたが、割愛させて頂く。)

我が国では、建物が自然に倒壊することはまずない。使用者や、所有者がその都合で壊している、というようなことが結論付けられている。

財務省による減価償却耐用年数というのがあるが、1998年に改正されて、どのように財務省は位置付けているかという、鉄筋コンクリート造では、事務所用などでは、50年を償却年限としている。税理士に税法上はどうなっているかと聞いてみたところ、鉄筋コンクリート造では47年、鉄骨構造だと47年になっている。公共施設の見直しの中で言われている50年というのがほぼ近似する。

(他に日本の建物がなぜ短命か、の要因として、土地の価格の上昇、相続税の問題が取り上げられたが、割愛させて頂く。)

この先生のレポートでも長寿命化とライフサイクルコストの検討がされていて、長寿命化した方がいいというのが結論である。

### 4. 建築の寿命の決定要因とは？

#### ①物理的要因

物理的寿命というのは、構造体がもう駄目だ、安全が保てないから壊そうというので、一番大きいのが地震。耐震能力の決め方が大きな地震が来るたびに、どんどん難しい方向へ行く。もう一つは、先程言ったコンクリートの場合の中性化の問題。特に酸性雨に晒しているコンクリートは、問題が多い。

人為的には、構造設計の過誤により、建物の寿命は危うくなるということがある。コンクリート打設の適否というのが、これも大きな問題で、かつて都心で計算センターの建物が出来上がってコンクリート強度を確認したら、強度が出ていないといって、出来たばかりの建物を壊すという事件があった。

もう一つは、コンクリートというのは、打設というが、柔らかいものを型枠の中に流し込んでいくが、その流しかたが悪いとジャンカといって、おこしみたいなコンクリートができてしまう。それをきちんと補修すればいいが、ややもすると誤魔化して、表層だけきれいにして過ごしてしまう。あとは雨漏り、それから汚れ、傷み、これも寿命に大きく影響する。

#### ②社会的要因

これが日本では大きな問題。一番多いのは、経済効率(赤坂見附のプリンスホテル、ホテルオークラ、風間建設本社ビル、丸ビル、新丸ビル、東京中央郵便局の例を挙げて説明)。

(その他、小・中学校の耐震診断による、建て替え運動、省エネを理由とした建て替えについて触れられたが、割愛させて頂く。)

### ③政治的要因

直面している公共施設の再編というのはこれだと思う。行政側の都合で 50 年経ったものは、建て替えて集約した方がいいということで、まさに政治的な要因で建物の寿命が決まる。

日本では景気浮揚のために既存の建物を壊して、もっと高い物にしよう。そのためには、容積率を上げてやるぞ。政府が音頭を取っているのが、東京駅周辺のビル。都心の再開発がそれで行われている。

(その他、相続税問題、計画道路についても取り上げられたが、割愛させて頂く。)

### ④空間的要因

建物を粗末に作るとみんなが愛着を持ってくれない。誰も気が付かないまま壊されてしまう、ということが一杯ある。幸いなことに、東京駅だとか、迎賓館とか、東京国立博物館等々、ああいっただのものをまさか壊せという人はいない。

## 5. さるびあ図書館の寿命の決定要因は？

ガラス面が大きいということがあるが、構造体を表に見せない。表の見た目を整えるために、構造を表面から内側に入れてガラスのカーテンウォールを整えるというのが、近代建築の特徴の一つだが、こういうデザインが主流になってきた。

玄関のデザインなどは、多分これはできた後、取って付けたのではないかと、どう見てもひどい。

空調が一番奥に吹き出し口があるが、その間に書架があるから、窓まで恐らく、十分届かない。そうすると、窓際が一番暑い、寒いが極端になる。

蛍光灯が全部むき出しだから、行ってみたら分かるが、ガラガラしても凄く辛い。

床はビニールタイルで、当時のままだとするとアスベストが入っていて危険ということになっている。

エントランスから左の方に行った、子どもの書架が並んでいる所は、底がないまま大きなガラスになっている。夏は猛烈に陽が入ってしまうし、冬は寒くて

どうしようもない。だからパネルで仕切ったのだと思うが、仕切り方が杜撰で、手入れも何もしていない。

中に入ると、パネルのやり方が杜撰なので、結果的に雨が漏って中に染み込んでいると思われる。

紙芝居・絵本コーナーは、一段下がっているが、冷房の時には、そこへ冷たい空気が溜まって、子どもにとっては辛い空間になる。

屋外階段で登ってきた所は、コンクリートの床があり、平らな所に防水したって雨は止まらない。必ず最後を起ち上げて、水が中へ入らないようにしないといけませんが、そういうことをやっている気配がない。この建物は、何カ所か原因の分からない所から水が漏れているようなことが起きているのではないかと。

屋上の防水は、きちんとしたアスファルト防水であれば、屋根から雨が漏るということはない。

窓の外に平らなコンクリートが汚れて埃が溜まっている所があるが、ああいう所が弱点になって、水が入ってしまう。コンクリートというのは、むき出しだとクラックが起きやすいので、あの窓の所に水切りといって、皿板を出していないと、そこから水が入って、台風のような吹き付ける雨が降ると漏ってしまう。

(2階の読書室へ行く階段の手前にある段差、トイレについても指摘があるが割愛させて頂く。)

以上のようなことが指摘できるが、だから駄目だということにはならない。丁寧に改修すれば、恐らく何の問題もなくみんなが喜んでくれる建物になる。

(要約・抜粋の文責:手嶋孝典)

### 《全体の質疑・討論》

・建物も含め利用の仕方など他の県や市との比較したデータはあるか？

手嶋:図書館の HP には「町田の図書館」に全国 40 万都市との比較のデータは載っているが、これだけでは不十分だと思う。そのデータの中では上位ということになってしまうが、図書館先進地域の多摩地区の中では町田は遅れていることは認識すべき。

・さるびあ図書館と地域との関係はどうか？

手嶋:現役の時鶴川図書館と地元のようなつながりはなく、駐車場を夏休みにラジオ体操の場所に使ってもらった程度だった。今後は図書館を拠点としてコミュニティづくりを考えていこうと思ってる。

・職場が森野3丁目だったので、お昼休みに行ける図書館としてさるびあ図書館を利用した。

・近隣の小中学校にとっては一人で行ける図書館として大切だが、この問題を知らない人が多い。

・公共施設再編計画のもとになっているのは、30年以上たっている公共施設が半数以上あるという問題意識。しかもその大半は学校施設だが、学校をなくすわけにはいかないので、その他の施設を集約して減らしていこうとしているのが基本的な考え方。しかし、さるびあ図書館については、今まで十分な手が入っていないので、これからも使おうとすればいろいろと補修しなければならないが、45年たっても躯体自体はまだまだ使えると考えて良いのか？

大宇根：耐震補強も済んでいるのであれば、何も問題はない。学校については、子どもが減っている地域であれば、学校を減らすのではなく、減築も考え、地域のコミュニティを残すことも可能。

・日本での建物の寿命を決定する要因は、物理的要因というよりむしろ政治的要因、経済的要因が大きいということか？

大宇根：日本人の建物に対する考え方が安易。建物を大事にしようとする気持ちが大切。使い続けようとする意識がまちづくりを変える。

・市の再編計画では施設の長寿化や、小学校区や中学校区でコミュニティを作っていくという論議は再編計画策定委員会の中ではできていない。少子高齢化が進むから財源が減ることが前提で、住みやすい、子育てをしやすいまちにして労働人

口を増やそうということは話し合われていない。複合化集約化する中で適切なものを探すところがあるところ論点。請願が通っても市が動くかどうかは難しい感触を持っている。さるびあ図書館もよほど頑張らないと難しいのでは。健康福祉会館も保健所を立て替える時になくなってしまう考えだ。財政だけの問題ではなく、必要なものは必要だということ。(策定委員)

大宇根：技術的な話、財政的な話にもって行って市と争うのは得策ではない。それより、これから描く未来のイメージを明確にする必要があると思う。

・ソフトの問題が大切。日本は建て直すことにあまり抵抗感がないが、いかに有意義に利用しているかを明確にすることが施設の存続につながると思う。

・高齢者やこどもの居場所が問題になっている。図書館や学校もふくめた、既存の施設も有効に使う必要があると思う。市も市民も総合的な視点にたって考えるべき。

・再編計画にはソフト面の対策は入っていないのが気掛かり。

・さるびあ図書館が移動図書館の拠点だったり、学校図書館を支援したりしていることを初めて知った。そよかぜ号は公園などをステーションにしているが、ショッピングセンターなど人が集まる場所に来てくれれば、もっと利用が増えるのでは。

大宇根：市民の側からの対案を出していきたい。

(文責：清水陽子)

まちだ未来の会 第9回学習会参加報告

## 市民が考える「公共施設再編計画」！

庄司 洋子

町田市の5カ年計画の公共施設再編計画について市民の意見を反映させるため活動する市民グループ、まちだ未来の会の第9回学習会が、1月21日午後2時から町田市民文学館で41名の参加により開催されました。

鶴川図書館の存続を求める請願、文学館の存続を求める請願、市民生活に根ざした「公共施設再編計画」の策定をもとめる請願の3つの請願が市議会で採択されたことの報告の後、“市民版公共施設再編計画シナプシス”について、代表の菌田碩也氏から提案されました。



誰もが住みたくなるまち—その条件は5つ。「やすらぎ」、「にぎわい」、「おちつき」「あんしん」、そして「ときめき」。このなかでなにを優先し、また、どんなふうに組み合わせてまちづくりをすすめていくか、まちをあげての合意形成が求められる。

基本となるコンセプトとして、**1) 基本的な生活圏を重視する** 徒歩通学を前提とした小学校区を単位として基本的な施設を整備すること。**2) 公共施設の「使いこなし」を徹底して追及する** **3) 市の財政全体の見直しと効率的な運用を図る** そのためには問題を指摘していく財務オンブズマンの仕組みを作る等市民のチェック体制をつくること。

具体的な方策としては、たたき台として、「学校をコミュニティの拠点」になど、きめ細かい施設を配置していくことが述べられました。

また、計画作りへの市民の参画として**自治基本条例の制定**などが挙げられました。全国369の自治体で制定されている自治基本条例は、市民参画の基礎となるもので、町田でもつくる必要があるという話は興味深いものでした。この後、これらの提案をもとに、討議がなされました。

「人口減の社会を支える働き手の若者を支える両輪がちゃんとあること」「農のある町が大事」「若者が参加できる状況をつくる」等いろいろな背景をもつ方々の意見が出されるなかで、若い参加者からは、「町田に住んでいても寝に帰っているようなもので市政は身近ではない。このような層を巻き込んでいく必要がある。ゼルビアファンの人たちも同じような会社員だろうし、夢を託しているのだろう。合意形成の仕組み作りがいる」と述べられました。

あかちゃんを連れて出席した人は、「成瀬在住で近くの境川に調整池を造る計画がもちあがり、市民の合意がないまますすめられている。息子が育っ

ってほしい」と述べられたのが、印象に残りました。

また、弥生ヶ丘自治会で博物館存続の請願に関わった人から、**2022**年に博物館が閉館する話があり、「郷土博物館はいらないのか？」と市に聞いたところ、担当者は「学校にある文化財を時々展覧会に出せばいい」と答えたといえます。まったく情けない、未来を見ない視点ではないでしょうか。市は図書館、文学館存廃の方針を6月に出す計画であり、これからの意見募集や市民説明会で、市民が口を開くことが急務！だと思います。

今回の学習会では、市長候補2名と市議会議員5名(内1名は、市長候補)の参加があり、一緒に討議できたことは前進だったのではないのでしょうか。

(会員)

\*「シノプシス」とは、要約、あらすじという意味です。“市民版公共施設再編計画シノプシス”は、町田の図書館活動をすすめる会のホームページ → まちだ未来の会 → 今までの学習会についてからダウンロードできます(編集者)。

## まちだ未来の会 第10回学習会

### 市民が考える「公共施設再編計画」！ part II

第9回学習会で出された参加者のご意見を取り入れた「市民版公共施設再編計画シノプシス」最新版を提示する予定です。

日時:2月17日(土) 午前9時30分～正午

場所:町田市民フォーラム(第1学習室 AB)

参加費:300円(カンパ)

主催:まちだ未来の会

連絡先:TEL 090(4703)8878(藺田)

## 第17期図書館協議会 第4回定例会報告(報告者 清水 陽子)

2018年1月15日(月)午前9:30～11:10 中央図書館・中集会室 傍聴者 なし

### 【報告事項】

#### ≪館長報告≫

1. 平成29年第4回町田市議会定例会 12/6 一般質問 熊沢あやり議員 子育て支援背策・学力向上  
いく世界は文学や芸術が失われていない世界であ

通帳について:他自治体で様々な方法で行われているが、検討したい。

Q:検討の内容は⇒経費のかからない方法で、対象も入学前の子どもなどに絞って検討したい。

Q:学校では読書通帳的なものは⇒委員:教科やテ

ーマで読書記録を作ることはあるが、個人の読書ではない。一般に中学校ではあまりないと思う。小学校ではしているし、効果はある。学校などと連携して行えば、効果はあるだろうが、ただ通帳につけるだけでは読書につながるかどうかは疑問。幼児が本に親しむことも視野に入れて欲しい。

文教社会常任委員会 12/13 町田市民文学館の存続を求める請願の審議。採択された。

## 2. 教育委員会 第9回 12/14

報告:中央図書館エレベーター改修工事及び中央図書館蔵書点検について

工事は 1/29～2/26 期間内の1/29～2/5は蔵書点検を実施するため休館。

Q:工事期間中の映画会は中止ということだが、翌月に休館中の分も開催できないか⇒検討したが、中止ということに。

## 3. その他

### (1) 第 11 回町田市生涯学習審議会 12/20

公共事業再編計画についての資料が配布された。スケジュールの変更(3ヵ月延ばす)。図書館部分について説明。集約、複合化の検討がはいつている。意見:説明会の参加者も少なく市民に周知されているとは言い難いと審議会でも話題に出ている。意見:長期の見通しがなく、短期で施設の集約を検討するのは逆だと思う。

⇒来年度中に、図書館についての集約に関することについて協議会にもお話することになる。

5ヵ年計画で先行して検討はしているが、再編計画は6月に策定されるのでそれを踏まえて結論を出すことになる。

### (2) 第 14 回町田市子ども読書活動推進計画推進会議 1/23

### (3) 地域館視察 1/23

### (4) 平成 29 年度東京都多摩地域公立図書館大会 2/6～8 都立多摩図書館にて

### (5) 第 32 回団体登録利用者懇談会 2/8 中央図書館にて

### (6) 2018 年度町田市立図書館嘱託員選考 来年度4月採用分。

Q:募集は何人か応募は何人か⇒募集はこれからやめる方もいると思うので若干名。応募は 60 人。

## 《副委員長報告》

図書館評価外部評価を 12 月 22 日に渡し、その中で3点提言した。

## 【協議事項】

### 1. 図書館評価の感想

・評価が図書館の改善のためにどのように役立っているかを内部評価のような形で検討していただけるとさらに改善の役に立ち業務量の削減につながると思う。縮小するというのではなく、前向きに改善されるのが良いと思う。

・数値で現れない部分のサービスやご苦勞も知ることができたが、本当の意味での市民サービスとは何なのを考えさせられた。

・資料費の顕著な削減が様々な面に見える形で表れてきていた。提言の中でも指摘しているが、この評価方法が改善につながる表現となっているのかという点ではもっと改善すべき点があるように感じられる。違う方法でも図書館や市民に伝えることが必要。

・図書館のサービスについて市民にもっと知らなければならないことが必要だということを痛感した。

・障がい者サービスについても、知らないこともたくさんあった。図書館とボランティア団体の間の距離を感じるところもあったので、そこが課題の一つだと思った。

・良いサービスをしていても評価項目に反映していないということもあるので、評価項目の設定も見直す必要がある。

・評価をすることで図書館への理解が深められる。事業評価になっているがサービス評価をする必要がある。

・評価の中で分析や検討を促す項目があったので、分析や検討結果について協議会に報告して欲しい。

### 2. 生涯学習審議会の答申の骨子について説明

館長:年度内に答申予定。

生涯学習の施策の方向性:まちづくりの住民参画の促進、地域・家庭・学校の協働による教育活動の推進、学びを活かせる社会作り、地域文化の創造・継承

★次回、第 16 期図書館協議会第5回定例会は 2018 年2月(日時未定)町田市立中央図書館中集会所にて 傍聴自由です!



## 例会 12/26 (火) 報告

- ・17:00～印刷他作業(清水・多田・手嶋・丸岡)
- ・18:00～20:20 中央図書館・中集会室

出席:石井・久保・清水・多田・手嶋  
・中嶋・野町・増山

## 1. 会報について

No220: 巻頭言 新年の挨拶(手嶋)⇒さるびあ図書館の存続を求める請願について、まちだ未来の会第8回学習会報告残り<大宇根弘司氏講演、質疑・討論(清水・手嶋)、「こんな本見〜つけた!」第5回(野町)、第4回図書館協議会報告(清水)、戸室幸治氏(三多摩図書館研究所所長)に執筆依頼を検討⇒次号(No221)に依頼予定

## 2. 今年度の活動計画について

図書館見学会:これまで候補に挙がっていた豊中市の図書館(学校司書は全校配置され、図書館司書共々読書推進課が掌握。豊中市立図書館協議会が指定管理者制度導入について答申を出している)、枚方市の図書館(指定管理者制度導入反対運動に常勤職員が関わっている)、茨木市立庄栄図書館(茨木市立庄栄小学校の敷地内にあり、小学校とは連絡通路でつながっている)に加え、以下の図書館の名前が挙がった。今の時点で決まらなければ、宿泊を伴う見学会は実施が難しいのではないかと。

- ・「志木市立いろは遊学図書館」志木小学校と一体となった学社融合の図書館。学校と社会の垣根を取り払う。
- ・「仙台メディアテーク」仙台市民図書館、ギャラリースペース、イベントスペース、ミニシアター等から成る複合施設。
- ・「神戸市東遊園地のアウトドアライブラリー」建物にとられないオープンスペースを利用した図書館。蔵書は、市民が持ち寄ったお薦め本で構成される。⇒ 終了
- ・「えんぱーく 塩尻市立図書館」
- ・「ひと・まち・情報 創造館武蔵野プレイス」図書館機能、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援、の4つの機能を併せ持った複合施設。最寄り駅は武蔵境。

## 3. 「町田市5か年計画 17-21」、「町田市公共施設

## 等総合管理計画」等について

### まちだ未来の会の取り組み

- ・12月議会に請願を2件提出
- ・請願

<町田市民文学館ことばらんの存続を求める請願>  
7,091筆集まる。12/13の文教社会常任委員会で「採択すべきもの」となる。12/22の本会議で採択(全会一致)。市民からは勿論のこと、生涯学習部長や議員からも、文学館の存在意義を認める好意的な意見が出ている。

<市民生活に根ざした「公共施設再編計画」の策定を求める請願>

9月議会で継続審議となっていたが、12/22の議会運営委員会で一部修正の上、総務常任委員会で全会一致で採択されるものとなり、休憩後に行われた本会議でも全会一致で採択。

- ・まちだ未来の会第9回学習会

市民が考える「公共施設再編計画」!

日時:1月21日(日)午後2時~4時30分

場所:町田市民文学館大会議室(2階)

### 「すすめる会」の取り組み

- ・請願

<さるびあ図書館を存続させることを求める請願>

若干修正を加える必要があるため、手嶋と増山で調整することになった。

## 4. 学校図書指導員について

その後の進捗状況 特になし。

## 5. 「第7回まちだ図書館まつり」について

1月25日(木) コアスタッフ会議

### 報告

#### 1. 団体及び個人からの報告

野津田・雑木林の会:2018年度は講演「シリーズ/野生・感覚をとりもどす」を文学館で開催する予定(不定期)。第1回は1月14日「アイヌの自然観」。講師はアイヌの結城幸司さん。

図書館六分会協議会:11月30日(木)総会開催。代表・黒田、「すすめる会」担当・石井

《編集後記》「町田市公共施設再編計画(素案)」について、意見募集を実施するにあたり、3月22日(木)~27日(火)に市民説明会を開催するそうだ。回数は前回と同様10箇所、10回のみ。意見募集は、3月20日(火)~4月20日(金)。ぜひ参加し意見表明を(T2)